

平成 30 年度 第 3 回古賀市図書館協議会会議録

会議名称：平成 30 年度第 3 回古賀市図書館協議会

日 時：平成 30 年 10 月 16 日(火)14 時～15 時 30 分

場 所：古賀市役所第一庁舎 4 階第 2 委員会室

主な議題：①平成 30 年度前期(4 月～9 月)事業報告について

②第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画進捗状況について

傍聴者：0 名

出席者：安部 由美子委員 村山 美和子委員 鈴木 章委員

久池井 良人委員 碓 幸子委員 諸井 ゆき子委員

以上 6 名

欠席者：2 名

事務局：5 名

配布資料：①レジュメ

②資料 1 平成 30 年度図書館事業計画(4 月～9 月)

③資料 2 平成 26 年度～30 年度 図書館の利用状況(4 月～9 月)比較

④資料 3 第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画進捗状況一覧表

⑤お知らせ 図書館まつりチラシ

読書講座「九州の文学者たち 2018」チラシ

ビブリオバトル IN 古賀市立図書館 チラシ

1 開会のことば

(事務局)

本日はご多用の中、古賀市図書館協議会にお集まりいただきましてありがとうございます。欠席の連絡をさせていただきます。河村委員さん、亀川委員さんから欠席の連絡を受けております。安部委員さんは 15 時前に退席されると聞いておりますので、よろしく願います。

資料の確認をさせていただきます。レジュメ、資料 1、平成 30 年度図書館事業報告(4 月～9 月)、資料 2、平成 26 年度～30 年度 図書館の利用状況(4 月～9 月)比較、資料 3、第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画進捗状況一覧表、別に図書館まつりと読書講座「九州の文学者たち 2018」のチラシ、ビブリオバトル IN 古賀市立図書館のチラシを入れております。封筒の中に、第 2 回古賀市図書館協議会の会議録、図書館要覧を入れさせていただきます。以上でございますが、不足ございませんでしょうか。

本日も第 2 委員会室にて、会議を進めさせていただきます。本会議につきましては、会議の公開制度に基づきまして傍聴席を設けております。会議の内容につきましては、古賀市のホームページ上に公開されますのであらかじめ御了承ください。発言されるときには、マイクのスイッチをオンにいただき、お話しいただきますようお願いいたします。終わりましたら、オフにということですのでよろしくお願いいたします。スムーズな議事録作成のため、委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、開会の言葉を教育部長の青谷よりいたします。

(青谷部長)

すっかり秋の感じられる大変過ごしやすい季節となりましたが、本日は皆様大変御多忙な中、第3回古賀市図書館協議会に御出席いただきありがとうございます。10月から11月にかけては、我々行政にとって来年度の予算編成を行う大変重要な時期でございます。本日この後、学校への予算説明会を予定しているところでございます。図書館の運営や読書の推進を図っていくために、本市でさまざまな事業や取組を実施しているところでございます。来年度に向けましては、現在実施しております事業等をしっかり検証しまして、市民ニーズも見きわめながら、必要な見直しを行っていきたいと考えております。特に、大きな課題でございます図書館窓口業務の委託の問題や開館時間のあり方について、引き続き慎重に検討を行っていきたいと考えております。本日の議題にありますように、本市では、1年前に第3次古賀市子ども読書活動推進計画を策定しており、この計画を着実に推進していく必要がございます。本日の協議会では、委員の皆様から進捗につきまして御意見をいただき、御意見を今後の参考にさせていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日、ここで一件御報告をさせていただきたいと思っております。本市で活動されておられます、たけのこ文庫さんが、公益社団法人読書推進運動協議会の2018年度野間読書推進賞を受賞することになりました。11月に東京で授賞式が実施されることになっております。たけのこ文庫がちょうど40周年を迎えまして、長年にわたる功績が評価されたということでございます。野間読書推進賞は、当時講談社の社長でございました野間省一氏からの寄附を受けたことを機に昭和46年から始まったということで、大変名誉ある賞だと思っております。

以上御報告ということで、それでは本日の協議会、限られた時間でございますが、御協議をよろしくお願い申し上げます。簡単でございますが、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2 会長挨拶

(事務局)

続きまして、鈴木会長より御挨拶をお願いいたします。

(会長)

皆さんこんにちは。たけのこ文庫の受賞の件、本当に素晴らしいと思います。さらに古賀東小学校の文部科学大臣表彰、次々に賞をいただき、常日頃子ども達への指導、活動の賜物でないかと改めて感じているところでございます。

本日の内容として、前半は図書館の活動状況、もう一つは、第3次古賀市読書活動推進計画の進捗状況についてとなっております。昨年度出来上がりまして、そんなにたっていないかもしれませんが、どんな状況なのかということを、私たち図書館協議会の役割として確認しながら検討していこうということです。今日、お2人欠席ではございますけど進めていきたいと思っております。

話は変わりますが、10日前、近くの映画館で葉室麟さん原作の映画「散り椿」を見てまいりました。私は、葉室麟さんが好きでいろんな本を読んでいます。映画・ドラマを見る前に原作を先に読むべきと思うところですが、今回は先に映画を見て、どのような考えで読むのかなと思いました。

もう一つ、この秋に国会で、いわゆる読書バリアフリー法というのを上程されると聞いております。デジタルブックをさらに高度情報社会において広めていくのと同時に、これ

までの紙媒体による本と両方とも広めていくということが主旨にあるようで、とても大事なことだと思います。夏のある勉強会で、100年後は手書き文化がなくなるかもという話がありましたが、私はそんなことはない、そうであってはいけないと思います。この読書バリアフリー法が成立してどんな状況に移っていくのだろうかということを見ていかなければと思います。長くなりましたけども、本日の協議よろしく願いいたします。

3 協議等

(1) 平成 30 年度前期(4 月～9 月)事業報告について

(事務局) 資料の訂正をお願いいたします。レジュメを見ていただきますと、5 開会のことばとなっていますが 1 です。そこから 1、2、3、4、というふうにお願いします。大変失礼いたしました。

ここで、青谷部長が公務のため退席させていただきます。

続きまして、協議に入ります。ここからは、鈴木会長、久池井副会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

(会 長) それでは協議に入ります。平成 30 年度 9 月までの事業報告について協議していきたいと思えます。事務局お願いいたします。

(事務局) 事業の報告の前に、前回ご協議をいただきました平成 30 年度図書館要覧につきましてご報告いたします。封筒に入れてお配りしておりますのでご覧ください。平成 30 年度の図書館要覧につきまして、前回 8 月の協議会で協議していただき、御意見をいただきました。事務局で整理しまして、修正できるところにつきましては修正しまして作成しております。

2 ページ、2 施設の概要で、「施設の図面が小さい」というご指摘をいただきました。施設の概要の部分ですので図面はそのまま残しまして、別に裏表紙に大きくカラーで詳細がわかるようにレイアウトしております。

20 ページから 25 ページ、12 読書活動事業で、事業の趣旨や内容について、協議していただいた時よりも詳しく説明を加えさせていただいております。「一つ一つの事業についてアピールすることが大事」というご意見をいただきましたので、修正を加えております。

大きくこの 2 点につきまして修正し、文字の訂正や数字のチェックなどを行いまして、最終的に鈴木会長、久池井副会長に修正点を見ていただきまして、このような形でお渡ししております。平成 30 年度は印刷費削減のため手刷り製本しております。

ホームページの方にもこれからデータをあげていきたいと思っております。ご協議ありがとうございました。事業報告の前に報告させていただきました。

平成 30 年度 4 月から 9 月までの図書館事業と利用状況につきましてご報告させていただきます。

資料 1、平成 30 年度図書館事業報告(4 月～9 月)をご覧ください。第 2 回の古賀市図書館協議会を 8 月 21 日に行いまして、8 月までのご説明につきましては報告を交えながら協議を行いましたので、今回は 8 月 21 日以降の事業につきまして報告させていただきます。

といいましても 9 月は 1 件です。9 月 9 日に読書ボランティア団体交流会を行いました。毎年、図書館と読書ボランティア団体の連携、個々の活動の情報交換や交流を目的に開催しているところです。平成 30 年度は、手遊び歌、わらべ歌の講座ということで、読書ボラ

ンティア団体の代表の方に講師をお願いしました。二人組で手遊びをしたり、輪になって体を動かしながらわらべ歌を歌ったりと、なごやかな笑顔あふれる交流会になりました。参加者からは、「ふれる、見つめることの大切さ、そうされることのうれしさを知りました。」あるいは、「おはなし会だけでなく、老人施設や心のケアなど、いろいろな場面で良いと思います。それほど心が温かくなります。」などの感想が寄せられています。ボランティアさん自身のために、またボランティア活動で出会う子どもや高齢者の方に十分活かしていただける内容だと思いました。参加者は17団体21人来ていただきました。

月例行事の報告をいたします。どようおはなし会は、参加者789人です。カッコ書きのところは平成29年度の数字となっております、およそ100人増えているところです。1回平均が30.3人でした。

赤ちゃんおはなし会は、1日20分を2回行っておりまして、1回平均16人ですので、親子で1日32人参加されています。絵本を読むだけでなく、親子でわらべ歌を歌いながらのふれあい遊びも行っております。

小さい子のおはなし会は、参加者114人で1回平均19人、名画会は参加者180人で平均30人となっております。

ブックスタート事業は、子育て支援課と連携で実施しております。子育て支援課がお知らせ、名簿の作成、進行など主な部分を、図書館はブックスタートの意義の説明と読み聞かせを担当しております。9月までに295人の親子が参加しております。配布率については確認しておりません。

セカンドブック事業は、毎月3歳児健診時に行っております。健診が終了した親子さんに5冊の絵本の中から1冊選んでいただき、お渡ししています。8月生まれまで90パーセントの配布率になっています。

その他の事業です。子ども映画会は、平成29年度まで毎月第2日曜日に実施しておりましたけれども、参加者数が年々減少してきましたので、子ども達が集まることのできる長期の休み中に集中して日にちを設定し、参加の呼びかけをして、年7回実施ということで見直しをしております。参加者数は108人、1回平均19人です。

学校図書館市民開放用一般図書の配本は、小学校8校、中学校3校に月1回、40冊までの配本を行っておりまして、現在までに1,577冊配本しております。

平成30年度は利用者促進ということで、九州産業大学との連携事業で、「感情認識人型ロボット pepper 活用事業」を歴史資料館と連携しながら実施いたしました。pepperを九州産業大学から借用しまして、事業の案内や図書館クイズ等ができるようプログラミングしていただきました。来館された利用者にも、楽しみながらふれあっていただいたところです。8月26日、9月15日に「pepperかるた大会」も実施いたしました。ことちゃんかるたの読み札をpepperが読んで、皆さんに札をとっていただくという形で行いました。会場には着ぐるみのことちゃんも現れました。86人の参加がありました。

7月7日に実施予定しておりました東医療センターとの連携講座、「図書館で学ぶがんシリーズ 大腸がん」は、講師の都合により延期とお伝えしておりましたけれども、2月23日に予定することができましたので加えてお知らせします。事業報告は以上です。

図書館の利用状況につきまして報告いたします。資料2、平成26年度～30年度図書館の利用状況(4月～9月)比較をご覧ください。

今年度も1年の半分が終わりましたので、4月から9月について、平成26年度から5年

間の利用状況を比較した一覧表をお配りしております。上から貸出冊数、貸出人数、入館者数、新規登録数となっております。貸出冊数、貸出人数、入館者数は平成 26 年度から平成 27 年度まで減少傾向にありまして、平成 29 年度は平成 28 年度に比べてわずかに増えたところでしたが、平成 30 年度には減少しております。貸出冊数は 6,600 冊も減少しております。PC、スマホなどの影響か、図書館としても対策を考えていかなければと考えているところです。以上です。

(会 長) ありがとうございます。前回の協議会は 8 月 21 日に実施しておりまして、そのときにこれまでの活動について協議しておりますので、それ以降を中心に、月例の行事、その他について、資料 1 をもとにお話がありました。資料 2 に、図書館の利用状況がデータ化し、数値化されています。このあたりのことも今報告がありました。貸出冊数などが若干減っているのが気になるというようなお話がありました。ここまで、御質問などありましたら。

(副会長) 資料 2 の図書館利用状況について、昨年度と比べると減少しているのが大変残念なことだと思っておりますが、平成 28 年度と比べると貸出人数は平成 30 年度の方が多いいですね。入館者数も平成 30 年度の方が平成 28 年度と比べると若干多いですね。貸出冊数だけが平成 28 年度よりも少ないということは、利用状況が最近変わってきているんじゃないかなと思うんですね。入館者数が多ければ、確かに貸出冊数も多くなって、大変に良いことだと思うんですけども、それ以外にも 1 人当たりの貸出冊数が最近少なくて、どちらかといえば 10 冊借りていくよりも読みたい本を選んで借りていらっしゃる方が多いのではないかと思います。そこら辺いかがでしょうか。

(事務局) この状況を見てみると、そういうことが言えるんじゃないかなということは思っております。ボランティアの方が一人で何冊もいろんな本を借りていらっしゃる様子は見るところでございます。

(副会長) 1 人あたりがそんなにたくさん借りる状況ではないということがありますが、この間も言いましたけれども、リーパスプラザにたくさん利用者の方がいらっしゃいますし、できるだけ図書館に足を運んでもらう努力というんですかね。今もリーパスプラザ内にもポスターを掲示するなど、さまざまな工夫をされているんですが、足を運んでもらって、手にとってもらう機会を増やさないと、せっかく事業報告されているさまざまな取組の効果が一部の人にしか及ばないと思って残念に思っています。後期に向けて、新規の利用者を広げる取組をぜひ継続して進めていただきたいと思います。

(会 長) 今の御意見について、こういうことをしたいというような案がありますでしょうか。もしあれば結構です。

(事務局) 利用者の獲得というところにもつながると思うんですけども、交流館の掲示板に、図書館、あるいは、歴史資料館もですけども、しばらく掲示をしませんかというお声かけをいただいております。今から始まります図書館まつりなどのチラシなどを掲示していきたいと思っております。連携できる場所は、できるだけ連携して広げていきたい

と思っております。図書館まつりは毎年行っているところですが、今まで、ポスターの配布をしていなかった場所、例えば、近くのスーパーとか、お店にも貼ってもらおうということで、いろんなどころに回りまして、ポスターの掲示を呼びかけているところがございます。

(会 長) 図書館まつりが今月末ありますので、イベントを中心として、きっかけづくりも大事ではないかということですね。それにも力を入れたいし、また、スーパーその他いろんな商店だとか事業主のところに依頼して PR を図っていききたいということですかね。ありがとうございます。

(諸井委員) 私はクロスパルこがに行っています。2 階にはポスターが貼ってあったりするんですけど 1 階にも貼っていただいたら。とにかく、あちこちに貼ってもらうというのがすごく良いのではないかと思います。

(会 長) PR、掲示物の工夫も大事ではないかということですね。

(村山委員) 今、交流館と図書館をうまくつなげるほうが良いという意見が出ています。先週の金曜日、交流館での習い事の帰りに、「どのルートで帰るか」という話になって、ある方についていったら、図書館の建物の階段に出ました。その方は「この道がすごく良いよ」とおっしゃっていました。交流館の 2 階から直接図書館の建物に入れるルートがあるということをおの人にわかるようにすると、便利というのもあるって、図書館の前に出てこられるんじゃないかなと思います。一切掲示物がなく、階段のところに来て初めて、「つながっていた」という感じでした。御存じの方は多いかもしれませんが、その辺工夫されると図書館のほうに出向かれる方が多いのではと思いました。

(会 長) せっかく交流館と図書館の建物がつながっているので、それを良い方向に活用し、ぜひ PR して「ここがつながって、スッと行けるじゃないか」と。交流館でのサークル活動の終わりに寄ることができると、また意識も変わっていくのではという意見もありました。参考にしていきたいですね。

(碓委員) 今年は台風がとても多く、週末の度に台風が来て、土日利用の方は図書館に行けなかったのではと思います。例えば赤ちゃんおはなし会などの日に、大雨や台風が来た時、閉館することはないんでしょうか。閉館はしていないんですね。催し物などは誰も来なくても一応開く予定にしているということですか。

(事務局) 10 月 6 日は、土曜日にどようおはなし会が開催予定になっていました。子どもさん対象ですので何かあってはいけないということで、事前に中止にさせていただきました。また、おはなし会のほうもボランティアさんもお願ひしておりますので、ボランティアさんの安全というところもありまして、子どもさんの取組などは、中止にさせていただくこともあるかなと思います。

- (碓委員) 一般参加の方への通知は、ホームページなどで「今日はありません」とか。
- (事務局) そうですね、ホームページと入り口の掲示でお知らせしました。
- (会 長) 台風等での休館についてです。私は10月6日土曜日に福岡県立図書館に用事があり、行くと思ったら、「今日は休館です」と。休館になることがあるんだと思いました。利用者にとって危険になってはいけないので、あらかじめ前日に既に決定したという話です。今回、市立図書館のほうは、休館ではなかったということですか。
- (力丸課長) 図書館が台風や災害のとき、台風が主になると思うんですけども、閉館は今までできておりません。係長が言いましたとおり、イベントをやる場合はこちらが主催であるから、この部分については中止を事前にしております。また、開館は今リーパスプラザもつながっている状況でございますので、このところでは閉館はしないということで今しております。ただし、これから先、つながっていて、いろんな利用者の方がおられる状況もあるので、ここは連携して、生涯学習推進課とのお話も出てまいるとは思いますけれども、今後課題になるかなというところは、今、私どもとしては思っているところでございます。今後どうしていくかというのは、内部で協議はしていきたいと思いますが、今のところ現在は、開館するというので決めておりますので、利用者の方が来られる分については受け入れるということにしております。以上でございます。
- (会 長) わかりました。資料2について、入館者、貸出、利用関係について何かございましたら。資料1にいきましょうか。例えば、私は大学で授業中にリラックスタイムとして、必ず真真中で絵本を紹介しています。「授業も良いけれども絵本の時間がとても楽しみ」という学生もいます。「ふだん本を読まなかった、最近図書館に行っていない」という学生が「図書館に足を運んでみよう」、あるいは「家に読めなかった本を積んでいたけども、読んでみようというきっかけになった。本を開くようになりました」という話がありました。本の紹介などの活動をコツコツしていくことが、結局、足を運んだり、本を開いたりすることにつながってくるということを改めて思いました。
- それぞれいろんな文庫の活動だとか、小・中学校でのさまざまな活動、難しいこともあるかもしれませんが、でも学校図書館開放だとかの機会、きっかけをつくる活動を日々されていることがやっぱり大事だということを改めて思います。
- 一方では、PRということも大事です。同時に、皆さんが、「やってみよう」、「行ってみよう」、「借りてみよう」、「新しく新刊が入ったかな」、「ちょっと足のぼしてみよう」、「サークル活動や勉強会の帰りに図書館に寄ってみよう」というきっかけづくりというのは大事だと改めて思いました。並行してやっていくことが大事じゃないかなということですね。
- 資料1、8月以降のところに話を進めていったとして、どうでしょうか。事業内容のところ、図書館まつりもあるわけですけど、その辺のことで何かございましたら。
- (副会長) 事業報告の中で、7月の東医療センターとの連携講座が延期になっていた分が決まって大変よかったと思っています。中止になったのではと心配するような状況だったものだから。図書館としては目玉の行事だと思います。いろんなところと連携することによって

お互いに存在意義を確かめ合うことができ、利用者の方も広がると思いますので、ぜひ続けていただきたいと思います。

同じように名画会がありますね。注目しているのは、第2土曜日、11月の名画会が連携した企画になっており、このような取組は素晴らしいと思います。サンコスモのほうもいろんな研修会などをされているんですね。ブックスタート等も連携してされていますが、名画会についても、ただ単に図書館が名画会をするのではなく、連携してすることによって、お互いの利用者の方が、改めて足を運んで、その中でさまざまな活動ができると思います。よく梅谷館長さんが挨拶の中でお話されていますが、今からの図書館は、図書館の中だけで完結するのではなく、さまざまなところと連携して、必要があればそこに出向く、また逆に呼び込むようなことをするのは非常に大事ではないかと思います。9月までは違うんですが、9月までの名画会プラス11月の行事を私はとても注目しています。ぜひたくさんの方においでいただきたいと思っていますところです。

(会 長) ありがとうございます。

(事務局) 11月の名画会ですけれども、男女共同参画係との連携の企画で、映画「マダム・イン・ニューヨーク」を協働で上映します。ぜひ委員の皆さんにも来ていただけたらと思います。

(副会長) サンコスモではなく、男女共同参画なんですね。わかりました。

(会 長) 会場はサンコスモでなくて。

(事務局) 会場は、図書館2階の歴史資料館中会議室です。

(会 長) 子ども映画会は1回平均18人、名画会、一般の方々は平均30人といわれました。子ども映画会については年7回で、毎月ではなく集中して、夏休み等を使ってやっているという説明がありました。映画会など、他のさまざまな活動、団体との連携が大事だとの指摘が今ありましたね。他に。

(諸井委員) こちらの図書館で働いていらっしゃる図書館の方はすごく優秀で、ちょっと聞いただけでもパツパツと答えてくださるし、すぐ本を持ってきてくださって、優秀な方たちが多いんです。ですので、もっとその方たちの力を発揮してもらえるような場をつくってもらったらどうかなと思うんです。聞いたら答えてくださるけれども、聞かなかつたら、あんまりその良さが目立たないというか。

(会 長) 例えば、何か案がございますか。

(諸井委員) 例えば、本の並べ方にしても、今すすめたい本を開いて、そうですね、開架の工夫を考えてはどうかなと思うんですけれども。

(会 長) 優秀な司書さんたちがいらっしゃる。

(諸井委員) そうなんです。聞いたらすぐにたちどころに答えてくださいますので、力を発揮していただきたいと思います。

(会 長) もっと力を発揮できるように工夫されたらというご意見ですね。事務局から何かございますか。

(事務局) 目に見える形で、本の面出しをしたほうが良いという話もありましたけれども、工夫をしながら、考えていきたいと思います。ありがとうございます。

(碓委員) 図書館に pepper が来ているとき、とてもかわいくて、子ども達は何人も集まってお話ししているのがよかったなと思います。

私達は、おはなし会で必ず科学の絵本を入れるようにしています。子ども達と科学をつなげるのには、図書館が大きな役割を果たすと思います。科学月間のような、星のきれいな7月、あるいは10月、名月の時などに、科学月間として宇宙に関する本とか、科学技術も子ども達好きな子が多いので、そういう企画をされたら面白いのではと思いました。そういう意味では子ども達の目の色がまた変わってきますよね。

(安部委員) 私自身、なかなか市立図書館の利用ができてなくて、申し訳なく思っております。子ども達が先日、学校で読書集会をいたしました。その際に、ビブリオバトルを行ったんですけども、全校の子ども達に、図書委員会の子がそれぞれ自分のおすすめの本を紹介していきました。1年生から6年生まで、発達段階としては大きな開きがあるんですけども、興味深く聞いていたと思います。図書館の中でも、優れた方がたくさんいらっしゃるということであれば、今月いちおしの本などを掲示していただくようなことをすると活性化を図っていくことができるのかなと考えました。学校の子どもの足の市立図書館に向くように何かできないかなと考えながら、皆様方の話を聞かせていただいています。小学生ではなかなか校区外に自分たちで行くことができないところがあって、そこが大きな壁になっているところかなと感じています。

(会 長) 学校では、社会科、国語科、総合的な学習などで、図書館見学などの学習はされているんでしょうか。

(安部委員) 特に中学年で校区や市内のいろんな施設を見てまわるということで、学習の一つとして見学をさせていただくことはやっております。

ただ、それが日常的につながっていくかということになると、なかなか難しい面があるのかなと感じています。

(会 長) 平成29年度も図書館でビブリオバトルの事業を展開されていますが、ビブリオバトルを小学校内の行事の中で取り入れる、あるいはブックトークなどを日頃やっていくことによって意識化を図るということですね。おすすめの本を図書委員が一生懸命話す、そのことで、子ども達が刺激を受けるということも大事じゃないかと。他に何か。村山委員さん。

(村山委員) 9月9日の日曜日の読書ボランティア団体交流会についてお尋ねします。今年参加する前に、「また付箋を使っていろいろ御意見を出し合って話し合うのかな」と思っていましたら、今回は講習会で、大変和やかで楽しく、聞くだけではなく、演習がたくさんあってよかったなと思いました。読書ボランティア団体交流会もずいぶんやり方が変わってきているようで、今回のような講習会の形に決められたのは、何か考えがあってそうされたのかなと思ってそれをお尋ねします。

(事務局) 今まで、グループに分かれて、それぞれの団体さんからいろいろな意見を出していただいて交流する形にしておりました。毎年、読書ボランティア団体交流会の終了後にアンケートを行っておりまして、幾つか書いてあった中に、「わらべ歌とかで皆で交流したほうがいいのでは」という御意見をいただきました。ボランティアの皆さんでつくる交流会ですので、御意見を取り入れまして、今回は違った趣向で計画をさせていただいたところです。

(村山委員) わかりました。

(会長) ありがとうございます。その他、7月7日にできなかった医療講座の件、前回河村委員さんも、「とても良い内容だし、ぜひ続けていただきたい」といわれたと思います。その他、ございませんようでしたら次に参ります。

(2) 第3次古賀市子ども読書活動推進計画進捗状況について

(会長) それでは、次の協議内容に移りたいと思います。冒頭、私も説明しましたが、平成29年度に第3次古賀市子ども読書活動推進計画が策定されました。1年前に、我々図書館協議会の委員も一部、策定協議会の委員に入っておりまして作りました。1年経つかという程度でまだまだこれからのところですが、古賀市図書館協議会はこの第3次古賀市子ども読書活動推進計画を協議し推し進めていくという役割がございます。この件について、話を進めていきたいと思います。事務局から報告をお願いします。

(事務局) まず、古賀市子ども読書活動推進計画について、その後報告というところでお話させていただきます。

古賀市では、国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」という法律に基づきまして、子どもの読書活動を積極的に推進し、子どもの読書の意欲を高め、読書活動を計画的に推進するというを目的にしまして、平成29年度10月に第3次古賀市子ども読書活動推進計画をおおむね5年の計画として策定いたしました。策定につきましては、古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会を立ち上げまして、検討、協議したところです。その進捗状況については、今、会長が言われましたように古賀市図書館協議会で管理していくことになっております。

策定しましておおむね1年が経過しますので、古賀市の子ども読書活動に関する事業の進捗状況を把握するため、調査を実施しました。平成30年度は、古賀市役所内の関係各課において行われている子どもの読書活動に関する事業について調査し、別紙資料3にまとめております。分量が多く、事前に委員の皆様へ送付させていただくほうがよかったかと

思いましたけれども、簡単に説明をさせていただきます。詳細は後でごゆっくり御覧いただければと思っております。今回は古賀市役所のみを調査対象としまして、各団体、保育所、幼稚園、小・中学校、高等学校、学童保育所などの調査を詳しくは行っておりません。しかし、啓発の意味も込めて、実施したほうがよかったのではないかとまとめながら反省をしているところです。来年度以降に実施できたらと考えております。

調査内容につきましては、第3次古賀市子ども読書活動推進計画の冊子、31ページ、32ページに載っている第5章、古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系の一覧表に基づき、1事業ごとに進捗状況を提出していただいたところでございます。

調査結果について説明をいたします。資料3を御覧いただきたいと思っております。

1ページ、計画の柱1、家庭・地域、保育所(園)・幼稚園、学校、図書館における子どもの読書活動の推進と環境づくりというところです。

1家庭・地域では、(1)ブックスタート事業の取組、4か月の赤ちゃんを対象に行っております。平成15年度に始まり、16年目となります。赤ちゃんと保護者に絵本が渡るように、子育て支援課と図書館が連携しながら行っている事業になります。本当に長い間続けてきて、いろいろな子どもさん、親子さんに絵本を手渡してきたところですが、就労されている保護者の方への引換が難しいというところが課題として上がっております。

(2)セカンドブック事業の取組、3歳の誕生日を迎えた子どもさんに絵本をお渡しするセカンドブックです。古賀市図書館協議会の中でも報告をしておりますけれども、平成28年度は50%だった配布率が平成29年度には90%というところで、現在も継続しております。一人一人に読み聞かせの意義や図書館の紹介をする十分な時間がとれているとは言えませんけれども、まずは1人でも多くの親子に手渡すことを大切に事業を行っています。

(7)地域コミュニティ活動の取組では、平成29年度に始まった図書館の出前講座を活用していただきました。

(10)家庭・地域教育支援事業では、家庭教育広場で絵本の講座が開かれ、家庭教育力を高める機会を設けるなど、意欲的に取組が行われていました。その他、さまざまな場所で行われている読書活動も、多少の課題はあるものの継続的に行われておりました。

3ページ、2保育所(園)・幼稚園では、継続した読書活動が行われているということで、団体貸出の冊数も平成28年度よりも平成29年度は増えている状況でございます。幼稚園保育園は、細かく調査をしておりませんので冊数というところで、報告がっております。

3学校は、平成30年度は学校教育課へ調査をしまして、個々の学校には調査を行っておりません。学校教育課からの提出分、あるいは学校で発行されます学校図書館要覧からさまざまな取組が行われていることがわかりまして、内容欄に記入をしているところです。

5ページ、(9)親子読書会の推進、市内で8つの小学校のうち7つの小学校で親子読書会活動を継続しています。親子で読書の楽しさを共有し、発表の場を設けることはできていますけれども、年々会員数が減少し、活動の推進や運営に課題があるなというところです。

(10)学校図書館の地域開放、平成29年度から市立図書館の一般図書を定期的に貸出し始めまして、地域の方が気軽に立ち寄るなど、開放していた成果が出ているということで、学校教育課から回答いただいております。

6ページ、4図書館、(1)「おはなし会」や「図書館まつり」の実施、年齢に応じたおはなし会を実施しておりますけれども、参加数が増え、最近では、父親の参加も多く見られるようになりました。平成29年度からは、長期休業中に小学生おはなし会を実施しております

けれども、なかなか参加者が集まらないことが課題です。また絵本から物語への橋渡しとなるような子ども読書会を試みまして、子どもの本の朗読、本の紹介等実施しました。

(2)乳幼児と保護者への支援、ブックスタートを0歳児、セカンドブックを3歳児対象に行い、(3)読書ノート事業の取組、読書ノートの配布を小学校1年生対象に行い、中学生読書サポーター事業を中学生対象に行い、それぞれの発達年齢に合わせた取組を進めまして、子どもの読書活動の推進を図っております。読書ノート配布は小学1年生対象ですが、図書館内では小学生用の読書ノートを作成、配布し、図書館のホームページから読書ノートの印刷ができるように準備を進めているところです。

7ページ、(4)「古賀市中学生読書サポーター」の取組、平成30年度は6名の募集に對しまして10名応募がっております。それぞれの年度でテーマを設定しまして、平成30年度はおはなし会をテーマに講座を設けまして、図書館のどようおはなし会でも活躍してもらっています。今後、青少年育成課で行う「子どもわくわくフェスタ」での本の読み聞かせや、各中学校での読書活動などに活躍してもらう予定にしております。今後、図書館のヤングアダルトコーナーの環境を整え、利用者を増やしたいと思っております。

図書館としての課題は、先ほどもありましたように利用の減少です。0歳から6歳を見てみますと、新規登録者は年々多くなりまして、平成25年度は183人であったのが、平成28年度は246人、ピークになりまして、平成29年度は216人となっております。貸出冊数を比較すると、平成25年度は26,000冊だったのが平成29年度には30,000冊を超えているところです。

8ページ、(2)図書館等と家庭・地域のところに数字を入れております。子どもの0歳から6歳については、平成29年度は増えたという状況です。学習支援、障害のある子どもや来館困難な子どもへの支援にも力を入れていきたいと思っております。

8ページ、計画の柱2、図書館間及び子どもを対象とした読書活動推進機関、団体との連携・協力に向けたネットワーク化でございます。計画の26ページを開いていただきますと、カラーの一覧表があります。「子ども読書活動推進の連携と協力のネットワーク、子どもが過ごすさまざまな生活の場での読書活動推進機関・団体の子ども読書活動への関わりのイメージ」を載せております。市立図書館等、学校、家庭・地域、保育所(園)・幼稚園、読書ボランティア団体と保護者が連携と協力をしながら、子どもの読書活動を推進していくということが第3次の計画で大きく取り上げたところになります。ここはボランティア団体、学校、保育所(園)・幼稚園に直接、調査をしていないために、文化課図書館係でわかる範囲で報告をしております。策定から1年足らずで、大きく変わったという報告はありませんけれども、継続しながらさらに活性化に努め、今後も継続していきたいということがあがっております。

10ページ、計画の柱3子どもの読書活動に関する理解と関心の普及です。子どもだけでなく、子どもを取り巻く大人への子どもの読書への理解と関心を深めるために、総合的な子どもの読書活動の推進を行っております。

(3)家庭読書の日、小学校では、家庭読書の日を設定し、家読(うちどく)を実施している学校がありました。古賀市では、今後の取組として、子どもを対象とした読書活動推進機関や読書ボランティアと連携しながら家庭読書の日を設定し、家読(うちどく)を推進し啓発に努めていくとしておりますが、なかなか、難しいところではあります。継続して取り組んでいきたいところがございます。

(4)子どもによる自主的な読書活動の取組、図書館では、中学生読書サポーター養成講座を行っており、子ども読書の日の取組や、図書館でのおはなし会で活躍しています。学校や地域で、子どもの自主的な読書活動の場がさらに広がるのが課題となっております。

(6)読書推進活動の奨励、古賀東小学校が文部科学省の子どもの読書活動優秀実践学校の部として表彰を受けております。また、読書ボランティア団体が古賀市社会貢献表彰を受けたり、地域社会のニーズに適合した地域密着のボランティア活動を継続的に行い、誠実に責任を果たしている人をたたえるソロプチミスト日本財団社会ボランティア賞を地域文庫の星の子文庫さん、また、先ほど青谷部長から紹介がありましたように、たけのこ文庫さんが野間読書推進賞を受賞しています。以上が一覧表の報告になります。

計画を策定しまして、まだ1年経過していないこともありまして、全体的に、現在の事業については、継続しているというような回答が大半でした。しかし、継続していくことが読書活動を推進していく上で、大事なことだとも思っております。この調査を実施することで、関係各課が子どもの読書活動に対して関心を持ち、図書館だけ、学校だけ、家庭だけではなく、相互に協力しながら、読書や本の大切さを見直し、子どもの読書活動を推進していく意識を共有することにつながったのではと思っております。以上です。

(会 長) ありがとうございます。11 ページにわたって整理しまとめるということで、空欄の部分も確かにありますけれども、今回、市の担当課対象ではありますけれども、こうやってまとめられたこと自体頭が下がりますし感心します。

最後に言われましたように、まとめていくことが、結局意識をひきたてることにもなるし、どうやっていくかということにつながっていくので、まとめること自体は大変ですけれども、とても大事だとお聞きしながら改めて感じました。多分、1年ごとにこうやってまとめていく形になるし、今後は現場での様子、子どもの保育所(園)・幼稚園、小・中学校、高等学校の形でのまとめというのはまた近々していく形になると思います。現場での成果と課題という方向も必要だと思います。ここまでお聞きしていて、事前に配布して、読まれたとすれば、もう少し意見があるかもしれません。今急に言われて、なかなか難しいかもしれませんが、聞かれていて気づいたところがありましたらどうぞ。

(村山委員) 地域文庫についてですけど、最近うれしかったことが一つございました。こちらで子どもの読書活動を推進することの大切さを学び、地域文庫で、平成29年度からブッククラブを立ち上げて始めてましたがなかなか人が集まりません。お年寄りの方の数は大変少ないんですけども、毎週文庫に来られます。ブッククラブは子どものためにつくったけれども、「じゃあ皆さん入られますか」ということで、今、年寄りの方も入られて、「1週間がそれで回っている」と言われます。「もう土曜日になってしまった」と。本の紹介のポップを子どもが書くときには一緒に書いてくださったりしています。本当は「子ども達がたくさん集まってくれたらあれもしたい、これもしたい」と思いながら、とにかく、地道に続けていこうというような気持ちでございました。

この間、近所の私の先輩が電話してこられて、NHKでAIが提案する番組が今あっているというのを教えてくださいました。テレビをつけたら、「運動、食事よりも読書が大事」という事について述べられていました。年をとったら読書がすごく大事で、しかも、図書館に出かけていく、そういう行動を起こしながら読書することが非常に重要であるというこ

とを話してありました。そして、その基盤になるのがここに書いてある子どもの読書活動の推進であるというようなことを述べてあって、何か納得するような感じがしました。

多分、電話してくださった方は、私にそういうことをしているんだよってという価値づけをしてくださるつもりだったんじゃないかなと思います。結局、年寄りもおるし、子どももおるけれども、つながっているというようなところをおっしゃりたかったのかなと思いました。それで、今、子どもの読書活動推進計画ではありますが、これが、ひいてはこの子たちが大人になって年をとったときに、図書館に通ったりするような人に育つように考えておられる、努力している計画なんだなということとその時しみじみと感じて、意義があると思いました。

(会 長) すばらしいですね。

(諸井委員) 今の村山委員さんのお話を聞いて、「本を読まない人は70歳になれば一つの人生だけ生きたことになる。しかし、本を読む人は5,000年を生きる。本を読むということは、不滅の過去と出会うことだからだ」という文章があります。ああ、そうだな、今のとつながるなと思いました。そしてギリシャのある村には「読むために生まれてきた」という言葉がよく使われるそうです。本当に小さい時から、大人になるまでずっと本と関わるというのがすごく楽しいんじゃないかな、良いんじゃないかなと思うんですね。

(会 長) 生涯学習ならぬ生涯読書といいますか、子どものために立ち上げたブッククラブ、これはもちろん子どものためですけれども、実は高齢者を含めたすべての大人のためであったと。それぞれを通して子どもと交流する場にもなるし、諸井委員さんがおっしゃったように、読書の意義、一生を通して読書が本当に大事で、いかに我々の読書を推進する活動が大事かということのを改めて思いますね。良い実践で、これからブッククラブが充実して発展してゆくと良いと思います。ありがとうございます。どうぞ。

(碓委員) セカンドブック事業についてです。赤ちゃんおはなし会に来られる人数がすごく多いのは、ブックスタートからつながっているのではと思いました。セカンドブック事業ですが、引換時に一人一人に読み聞かせの意義や図書館の紹介に十分な時間がとれていないということでしたけれども、ここが1番大事なのではと思います。5分か10分でもいいので、実際に本を読んであげて、図書館で毎月水曜日の第2水曜日の行事のお知らせをきっちりされるのが良いと思います。読書ボランティアはこういう時声をかけていただければ喜んで伺いますので、どうぞご利用ください。

(会 長) 利用されることが大いに良いのではと思います。ありがとうございます。どうぞ。

(副会長) ブックスタート事業が始まって、この一覧表の中にもあるんですが、0歳から6歳の登録者と貸出冊数が増えていて、非常に良いことだと思います。私の知っている人も、「忙しくて図書館にはこれまで行かなかった」と。ところが「子どもができてから我が子に本を読んであげたいということから、図書館に行くようになった」という方もいらっしゃるんですね。本屋さんに行けば本はありますけれども、「我が子にこの本を読ませたい」という

ときに、「まず図書館に行っているいろんな本にふれたい」というところがあるみたいです。結局、学校教育もそうですが、子どものことをしているようで、実は親も一緒に学んでいるんですね。親子という組み合わせは非常に強いものがありますから、地道に底上げをしていくこれらの事業はととてもすばらしいと思います。0歳から6歳まで、親子の利用が増えているということは、ここを広げていって、図書館がいろんな形のセンターになっていただきたいと思います。図書館を入ったところに地域文庫の活動状況をお知らせする掲示板があり、見ると「地域文庫も頑張っているんだな」ということがわかるんです。図書館に足を運べば本もある、いろんな活用状況もわかるということで、「図書館に行けば何かがある」というセンター的な機能を果たせばじわじわと基盤の部分から広がっていくんじゃないかなと思いました。

(会長) 図書館に足を運べば、そこにさまざまなものがある、「知の宝庫」と言われています。学校図書館の話をする時に、「学校図書館の三つの機能があって、読書センターとしての機能、学習センターとしての機能、情報センターとしての機能、この三つの機能を持っている」とお話しするんです。今言われた中にも関連しますが、さらには研究センターといえますか、学び、研究する、研修を深める機能、学校でいうと教材センター的な機能もあるんです。そういったさまざまな機能を有しているということを今言われたと思います。そこに行けば必ず何かあるし、だからこそ足を運んでほしいということを改めて今思うところです。相互作用ということも言われました。今日まとめていただいて改めて感心します。実はここまでされるとは思いませんでした。内容と成果と課題という形でされるというのは、本当に感心しました。このように計画を着実に実践化していくことが基本、基礎となると思います。今日は人数も少なく、でも、とてもいろいろお話もしていただきましたので、充実した話し合いができていますと改めて思います。その他にどうでしょうか。

(副会長) 今日は1年目の内容の点検ということになりますが、5年間だから毎年この時期にするわけですかね。今回は1年目の現状と言った部分が色濃く出ていると思います。問題は、2年目になった時にここに出ている成果と課題が今年と同じではいけないと思います。課題というのはよく永遠の課題といわれますけれども、残されているものが課題に書かれていて、なかなかそこは進まないんですね。成果の部分も現状がよければ来年度も大体同じようなことで、だんだん2年3年といくに従って同じことをやっているというふうになると思うんですね。でも全部を一遍に進めるのは大変なことです。来年度は、こういったところは一つ改善したいとか、全ての面においてできないならば、この事業については伸ばしたいと言ったものがないと厳しくなってくるかなと思います。

古賀東小学校が文部科学大臣表彰を受けたのは素晴らしいことだと思います。すべての学校とのやり取りを活発にするということにはできないと思うのですが、どこか突破口はないかなと思います。例えば、古賀東小学校がそこまでつくってあるのであれば、古賀東小学校と図書館の間でやりとりを密にしてもらって、ほかの学校に対してもこんなふうにしたらどうでしょうかというモデル的なものを示されるとか、何か突破口を見つけると、来年度に向けて見通しができるかなと思います。2年3年と、これからずっと点検活動していくならば、5年目には「少なくともこんなことができるようになりました」と、全部は無理と思うんですね。しかし具体的なものを少しずつ残せたらと思います。ぜひ課題を解

決する糸口を見つけてもらうようなことができたらと思っております。

(会 長) ありがとうございます。厳しい指摘もあるんですけども、実はとても大事なところで、お聞きしながら、突破口ならぬ重点化から進めていくといえますか。全て並行してやるというのも大事ですけども、できるようでできない、ならば、来年度は個々に力を入れていく、確認していくというようなことも大事じゃないかと思えます。現に、地域文庫から今日きていらっしゃる村山委員さん、コスモス文庫ですかね。表彰を受けた星の子文庫、たけのこ文庫の活動なども、例えば村山委員さんが先ほど紹介された活動をさらに PR していくなり、努力していくなりですね。それから小学校の古賀東小学校を PR していく。そういったことを皆さんにわかっていただいてやるというやり方もあるでしょう。何か重点化していくことで、1年後に変わってきた、「次の年はここが変わってきた」ということが、他に見えてくるといいなという、願いを込めて今言っているところですけども。そんなことをできると良いですね。加えてどうぞ。

(副会長) もう一つだけですね。なかなか改善してレベルアップが難しいことでも、よく古賀市で、文化芸術のほうで「宝を見つける」言われていますよね。「古賀の宝を見つける」と。読書活動もきっと目立たないところに宝があるんじゃないかなと思うんですね。だから、もし「来年そんなこと言っても一遍にあれもこれもできません」と言ったときに、1年後に「実は去年は埋もれていた活動に日が当たりました」とか、「こういったところがお互いに認識できました」というのも具体例を見つけ出すことだって良いと思うんですね。深まりとは別ですけども、広がりという面で、5年間の活動の歩みの中で、宝がいっぱい出てくるんじゃないかなと思っています。

(会 長) 良い言葉ですね。「宝を見つける」というんですね。なるほど。我々も委員で、言いつばなしにならず、それぞれ関わっていくということをしていいたいなと改めて思います。お話しつつ、私にできること、それぞれの委員さんにできることをやりながら、事務局と力を合わせて進めていかなければと思いました。何かまとめたこと言ってしまいましたけども。それでは、今日のところはここまでしておきましょうか。協議を予定していたところは以上ですけども、何か皆さんの方から「これについて確認したい」ということ、お聞きしたいことというのがございましたら、次にその他ということで進めていきますが。よろしいですか。

(4)その他

(会 長) それではその他で事務局から何点かあるようですのでお願いしましょうか。

(事務局) 事務局から3点お願いします。

1点目、図書館まつりのチラシを配布させていただいておりました。平成30年度も全国読書週間に合わせまして10月26日から28日の3日間、図書館まつりを予定しております。平成30年度で24回目の開催になります。いろんなイベントを準備しておりますので、ぜひ足を運んでいただければと思っております。

チラシを見ていただくと、右上に図書館まつり期間に行う取組を載せております。こと

ちゃんぬりえコンテスト、布の絵本展示、図書館員おすすめの本のお楽しみ袋、ブックリサイクル。

読書の木、今年初めて行います。葉っぱの形に切った紙に利用者のおすすめの本を書いていただきまして、図書館の閲覧室に掲示して読書の促進を図っていきたいということです。既に掲示をはじめておりまして、題名だけではなく、内容についても触れて書いていただいているようなものもたくさんいただいております。

左側には日替わりで実施するイベント、詳しくは裏に載せております。

26日、「ブックカバーをつくろう」、「あなたの大切な本にブックカバーをかけませんか」ということで簡単にできるブックカバーづくりをします。

27日、「どうようおはなし会プラス」では、いつものどうようおはなし会に加えまして、古賀市中学生読書サポーターの皆さんによる小学生向けのおはなし会を、時間を延ばして実施いたします。同じく27日に、読書講座「九州の文学者たち2018」と題しまして、西日本新聞社編集局社会部次長、塚崎謙太郎さんを講師に迎えます。黄色のチラシに詳しく書いているところです。

28日、「図書館で落語会」、宗像落語会の粗忽家酔書(そこつや よいしょ)さんを迎えまして、落語、紙切りを楽しんでいただきたいと思っております。ぜひ委員の皆さんのご来場お待ちしております。

11月3日に「ビブリオバトル IN 古賀市立図書館」を実施します。「人を通して本を知る、本を通して人を知るための書評コミュニケーションゲーム」です。発表者、観覧者全員で1冊読みたい本を投票で選んでチャンプ本を決めるというものです。平成29年度は高校生以上を対象でしたけれども、今年度は中学生以上を対象として参加を募集しております。平成29年度も来ていただいた委員さんもいらっしゃいますが、今年度もぜひ、バトル、観覧者になっていただければと思っております。事前に申し込んでいただくと嬉しく思います。よろしくお願いいたします。以上が、図書館まつりとビブリオバトルのお知らせになります。

2番目です。会議の公開のために、議事録校正について御協力をいただいておりますけれども、今回は、久池井副会長さん、村山委員さんをお願いいたします。校正が終わられましたら、署名捺印をしていただきまして、事務局までお返しいただければと思っております。御多用中とは存じますが、よろしくお願いいたします。

3番目です。次回の開催日につきまして、2月の終わりに開催を予定したいと思っております。2月19日火曜日、あるいは2月22日金曜日ではいかがでしょうか。よろしくお願いいたします。

(会 長) わかりました。次回、2月19日火曜日か22日金曜日の案が出ています。今日は全員出席ではないので難しいんですけども、時間は14時ですね。ご都合が悪ければ言うていただいて、そうでなければこの二日の間で決めればよいと思います。他の方々の都合がわかりませんが、一応第1案、第2案ということで、では火曜日にしましょうか。火曜日の方向ですね。19日の方向で、22日を第2案ということで進めましょうか。

以上で連絡等を含めて協議は全て終了しました。進行関係を事務局にお願いします。

(事務局) 鈴木会長、久池井副会長、進行ありがとうございました。

8 閉会のことば

(事務局) 最後に、閉会の言葉を文化課長の力丸が申し上げます。

(力丸課長) 委員の皆様におかれましては、本日は貴重な御意見いただきましてまことにありがとうございます。また、いろいろなアイデアを出していただきまして、今後の図書館運営に生かせるようなところがありましたら随時使っていきたいと考えております。これからも魅力ある図書館づくりに邁進していきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

(会 長) ありがとうございました。